



広島オーストリア協会

会 報

No.35

平成24年5月10日発行

編集・発行／広島オーストリア協会

〒730-8552 広島市中区白島北町19番2号
広島ホームテレビ 総務部

TEL (082) 221-4964 FAX (082) 221-4905



ウィーン・ベルベデーレ宮殿



広島オーストリア協会 会長
在広島オーストリア名誉領事

橋本宗利

会員の皆様には日頃から広島オーストリア協会の活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨年度の広島オーストリア協会では、6月に「年次総会」、8月には「講演とビヤホールの会」、12月には「クリスマス例会」、1月にはウィーン交響楽団、ヨハン・シュトラウス・アンサンブルによる「ニューイヤーコンサート」、さらに3月には初めての試みとして「ケーキと音楽を楽しむ会」などの事業活動を行いました。

総会には離任をまえにしたユッタ・シュテファン＝バストル大使にもご出席いただきました。そしてこれまでの当協会のオーストリアとの民間文化交流推進やコンサートの開催など、日頃の活動に対して感謝とお礼を述べられました。

本年度も日本とオーストリア、広島とウィーンの友好関係が一層促進されるよう活動の充実に努めてまいります。

今後とも会員の皆様方に当協会の諸行事にご理解とご協力とをいただき、積極的にご参加いただきますようお願い申し上げます。



■ 日 時 平成23年6月8日(水) 18:00~20:00
 ■ 場 所 ANAクラウンプラザホテル広島
 ■ 出席者 113名

広島オーストリア協会の通常総会をユッタ・シュテファン＝バストル大使をメインゲストに迎え ANA クラウンプラザホテル広島で 113 人の会員の出席のもと開催しました。

最初に、離任を前にしたバストル大使の挨拶があり、「広島オーストリア協会のオーストリアとのいろいろな民間交流の推進やコンサート開催など日頃の当協会の活動」に対して感謝とお礼が述べられました。

引き続き、広島オーストリア協会の会員で広島で活躍する大橋香織さんのフルートとピアニストの伊藤真理子さんバイオリンの川口志乃さんによる演奏が行われました。出席者の方々は素晴らしい演奏に耳を傾けていました。



▲ バストル大使

▲ 後藤理事



平成23年度事業報告

平成23年度理事会・総会

6月8日(水) ANAクラウンプラザホテル広島(参加者:113人)

講演とピアホールの会

8月31日(水)広島アンデルセン(参加者:112人)

クリスマス例会

12月6日(火)リーガロイヤルホテル広島(参加者:111人)

ウィーン交響楽団 ヨハン・シュトラウス・アンサンブル ニューイヤーコンサート

1月9日(月・祝)はつかいち文化ホールさくらびあ大ホール(参加者:1079人)

ケーキと音楽を楽しむ会

3月17日(土)パッケンモーツアルトコンチェルトハウス(39名)

平成24年度事業計画

平成24年度理事会・総会

6月1日(金) ANAクラウンプラザホテル広島

講演とピアホールの会

8月 広島アンデルセン

近藤嘉宏 plays Chopin「別れの曲」シネマ&リサイタル

11月10日(土) はつかいち文化ホール さくらびあ大ホール

クリスマス例会

12月 リーガロイヤルホテル広島

ケーキと音楽を楽しむ会

平成25年3月 パッケンモーツアルトコンチェルトハウス

平成23年度役員(平成23年6月8日現在)

役 員	氏 名	現 職
会 長	橋 本 宗 利	(株)広島ホームテレビ相談役
副会長	不 破 亨	湧永製薬(株)副会長
	光 井 安 子	音楽家
	吉 原 誠	マツダ(株)コーポレート業務推進本部 本部長兼CSR推進部長
専務理事	村 井 博 文	(株)広島ホームテレビ総務局長
理 事	安 東 善 博	(株)中国放送社長
	大 辻 茂 茂	(株)広島ホームテレビ社長
	川 口 英 二	(株)テレビ新広島常務
	熊 平 雅 人	(株)熊平製作所会長
	トーマス・ロイド	駐日オーストリア大使館公使
	後 藤 文 生	広島テレビ放送(株)会長
	沢 田 武 一	三菱商事(株)中国支社長理事
	スティーブン・ロイドパー	(財)広島平和文化センター理事長
	久 保 雅 史	広島エフエム放送(株)副社長
	野 坂 文 雄	(株)もみじ銀行頭取
	濱 幾 太 郎	(株)広島ホームテレビ会長
	林 克 士	福山商工会議所会頭
	福 嶋 正 純	広島大学名誉教授
	万 徳 良 男	(財)ひろしま国際センター専務理事
	望 月 成 成	エビス電工(株)社長
	山 本 一 隆	(株)中国新聞社副社長
	吉 中 康 磨	安田女子大学非常勤講師
監 事	岩 崎 恭 久	中国電力(株)常務
	志 水 省 夫	(株)新日放社長

運営委員

役 名	氏 名	現 職
委 員	阿 部 秀 造	(株)阿部洋酒店社長
	井 川 實	(財)広島平和文化センター国際交流・協力担当部長
	内 海 輝 雄	オフィスU代表
	小 坂 哲 也	広島国際大学教授
	深 崎 敏 之	広島平和文化センター評議員
	古 田 篤 良	マツダ(株)コーポレート業務推進本部 総務部総務コミュニティグループマネージャー
	光 井 安 子	音楽家
	田 中 勝 邦	(株)広島ホームテレビ 国際担当補佐
	梶 本 則 雄	(財)ひろしま国際センター交流部交流推進課長
	多 田 直 人	(株)もみじ銀行カスタマーコミュニケーション部 部長兼広報室長

特別役員

役 名	氏 名	現 職
特別顧問	ユッタ・シュテファン＝バストル	駐日オーストリア大使
名誉会長	篠 原 康 次 郎	
顧 問	川 野 祐 二	エリザベト音楽大学学長
	岸 田 文 雄	衆議院議員
	深 山 英 樹	広島県商工会議所連合会会頭
	松 井 一 実	広島市長
	湯 崎 英 彦	広島県知事

「駐日大使としての思い出」 ユッタ・ステファン＝バストル



私は2007年から2011年までの4年半、オーストリア駐日大使として東京に勤務しましたが、私の長い外交官生活の中でも日本駐在は公私共に非常に素晴らしい思い出です。無論、中でも数多く訪問した広島への思い出は大変印象深いものばかりです。

在任中で最大の思い出は2009年に「オーストリア・日本修好140周年」を記念して両国において政治、経済、通商関係の各種セミナーや講演会からウィーン・フィル交響楽団訪日演奏会をはじめ演劇や芸術・展示会などの文化面に至るまで盛りたくさんの記念行事が開催されたことです。

特に、5月には天皇陛下のご名代として、秋篠宮さまご夫妻がウィーンを始めオーストリア各地を訪問されました。その答礼としてハインツ・フィッシャー、オーストリア大統領夫妻が訪日するなど、この年には両国間で多彩な交流が行われました。



▲ 秋篠宮さまご夫妻のウィーンご訪問(写真提供:イップ 常子さん)

これら様々な公式行事や催事は日本の外務省とウィーンの日本大使館など関係者が一緒になって立案から実行まで取り組んだ事は私にとっては大変貴重な体験でした。

フィッシャー大統領夫妻の訪日では素敵な思い出があります。当時の鳩山首相主催による赤坂離宮での公式晩餐会では天皇、皇后両陛下もご臨席され、オーストリアを代表する交響楽団、ウィーン・フィルの演奏も行われました。このよ

うな素晴らしい場面に駐日大使として同席させて頂いたことも大変名誉なことでした。

さらにこの年、私も同行し感動したのは2009年1月、衆議院の招待によるオーストリア国会議長、バーバラ・プラマー女史の訪日と、当初、予定になかった広島訪問です。プラマー女史は短い日程の中で広島市の平和公園と「原爆の子の像」の見学を特に希望しました。それは、女史が学生時代にオーストリアの児童文学作家カール・ブルックナーの著書「サダコは生きたい」を読んで以来、ずっと広島訪問を願っていたからです。

同年9月にはこの著書にちなみ、広島オーストリア協会が



▲ 平和モニュメント

ウィーン埋日協会と共同で、ウィーン市内に広島の被爆石による「平和モニュメント」を建立したのも特筆すべきことです。

なお、この本「サダコは生きたい」はオーストリアを始めヨーロッパ各国では教科書に掲載されるなど青少年のベストセラーになっています。

広島ではいろいろ多くの思い出がありますが、そのハイライトはやはり主人のピーターとともに3度も訪問した大好きな世界遺産の島「宮島」です。

訪れる度に、新しい発見をしました。あるとき、厳島神社では神前での結婚式にも遭遇しました。神主の上げる祝詞と美しく着飾った新郎新婦の日本伝統の和服姿さらに神前での誓いの杯の交換などを拝見して神秘的で大変感動しました。

最後に、この4年半の間に在広島オーストリア名誉領事である橋本ご夫妻にも公私共に大変お世話になりました。心から感謝しています。どうもありがとうございました。

なお、橋本ご夫妻は私が東京への赴任直前にウィーンでお会いした最初の日本の方でもあります。

また、広島ホームテレビの大辻社長には今後ともいろいろとお世話様になりますがよろしくお願い致します。近い将来ウィーンでお会いできることを願っています。



講演とビアホールの会

- 日 時 平成23年8月31日(水) 18:00~20:05
- 場 所 広島アンデルセン4階スカンジナビアホール
- 参加者 112名

講演はオーストリア大使館のマルティン・グラッツ商務参事官に「オーストリア経済とオーストリアと日本との経済関係と現状」についてお話しをしていただきました。

引き続き、地元広島で活躍している「カスティージョ・デ・アンデス」の4人による南米音楽で楽しいひと時を過ごして頂きました。



▲ グラッツ商務参事官



▲ 浅原広島大学学長



クリスマス例会

- 日 時 平成23年12月6日(火) 18:00~20:00
- 場 所 リーガロイヤルホテル広島クリスタルホール
- 参加者 111名

橋本会長の挨拶の後、広島地区ではあまり知られていないライアーの演奏に移りました。ライアー奏者の宇月彩さんとピアノ伴奏の三宅静香さんによるクリスマスソングの演奏などに参加者は堪能した様子でした。

オーストリア・ワインやビールとともにオーストリア風の料理を楽しんだ後、お楽しみ抽選会に移りました。参加者の三分の一の人たちに景品が当たるなど、クリスマス例会は大盛況のうちに終了しました。



▲ 深山広島商工会議所会頭



ケーキと音楽を楽しむ会

- 日 時 平成24年3月17日(土) 14:00~15:30
- 場 所 バッケンモーツァルトコンツェルトハウス幟町店
- 参加者 39名

初めての試みとなった「ケーキと音楽を楽しむ会」はエリザベト音楽大学の小野美由紀さん（ピアノ卒業）野尻夕貴さん（フルート3年生）による皆さんによく知られた曲のBGM演奏でスタートしました。

そして、橋本会長・岸田衆議院議員の挨拶に引き続き、参加者はケーキバイキングを楽しみました。

会の後半は、ピアノの小野さんがクラシックを中心とした曲を紹介しながら演奏するトークショウのような形式で行なわれ「春

の歌」やオーストリアゆかりの曲など6曲が披露されました。
ケーキとウイナーコーヒーなどとともに和やかに会は終了しました。



ニューイヤー・コンサート

- 日 時 平成24年1月9日(月・祝) 16:00～18:30
- 場 所 はつかいち文化ホールさくらびあ大ホール
- 参加者 1079名
- 演 奏 ヴィーン交響楽団ヨハン・シュトラウス・アンサンブル

ウィーン交響楽団 ヨハン・シュトラウス・アンサンブル ニューイヤーコンサート2012



▲ アントン・ソロコフ



▲ 松岡 真季

新春の晴れた午後、ヨハンシュトラウス2世のワルツ「ジプシー男爵」で公演は幕を開けた。

曲が始まると、会場内はまるで春の花が咲き誇るような穏やかな空気に包まれた。目を閉じると脳裏にはウィーンの宮殿の景色が広がり、そこでは華やかなドレスや燕尾服に身を包んだ人々がエレガントにウィンナ・ワルツを踊っている姿が目映える。

優雅で流れるようなワルツ。ヴァイオリンを始め、ヴィオラやチェロ、フルート、ホルン…管弦が織りなす温かい音色は安心感に満ちていて、まさにウィーンの春風がふいているよう。

新春に良い音楽を聴くのはなんて気分が清々しいのだろう！「きっと良い年になる！」そんな気持ちにさせられながら、公演は展開していく。

ゆったりとしたワルツのみならず、アップテンポに刻まれた「ツィンパロンの響き」や、運動会の定番曲「トリッチ・トラッチ・ポルカ」の愉快な旋律で、変化のあるプログラム。曲を全部知らなくても断然楽しい！

いよいよ、ソプラノの松岡真季さんが真っ赤なドレスに身を包み、登場！

美しくそして堂々と歌を披露。ソプラノが入ると、華やかさが一気に増す。

「ほろ酔いの歌」では、ワインを片手に（実際はアップルジュース！）演出し、観客を喜ばせてくれた。松岡さんは愛媛県松山市の出身で、イタリア在住。世界で活躍しているので今後も楽しみだ。

ヨハン・シュトラウス・アンサンブルでは、ワルツ王であるヨハン・シュトラウス2世自身のオリジナルスタイルに則り、12人と小編成なのだが、何と、ヴァイオリンを弾きながら指揮をとるといふ、実に面白い演奏方法をとっている。指揮・ヴァイオリンのアントン・ソロコフさんは、ある時は観客に背を向け、ヴァイオリンの弦を指揮棒にして指揮をし、またある時は観客の方を向き、ヴァイオリンを演奏するのだ。

あっちを向いたりこっちを向いたり、指揮をしたかと思えば、演奏したり…それでも本当に息がピッタリで、不思議な

程だった。

そんなアントンさんの一番の見せ場となったのが、サラサーテの「ツィゴイネルワイゼン」。ヴァイオリンの名曲をしっかりと聴かせてくれた。

プログラム最後を飾るのは「美しく青きドナウ」。日本でもとても愛されているワルツの名曲で、その旋律を聴くと、子供の頃小学校の音楽の授業で習った日本語の歌詞を歌い出したくなるのは私だけだろうか？

～水は冴かに美しく 空のように青く 限りなき美にドナウは充ちる ドナウ…～

さあアンコールはたっぷり3曲。「クラップフェンの森」では、楽器で鳥のさえずり（カッコウの鳴き声）に見立てた音を出し、楽しませてくれた。客席からは笑い声！

音楽は人の気持ちを豊かにする。音楽の知識が有る無いに関わらず、音楽というのは本当に楽しいのだ！！

アッという間に2時間が経ち、公演は大盛況のうちに終了。心の中は、ウィーン一色！ああ！音楽の都ウィーンに行きたい！数々の音楽家を生み出した音楽芸術の聖地へ…そんな夢を見つつ、こうしてウィーンから演奏家たちが広島にやってきてくれるなんて、なんて素晴らしいことだろう！と思った。

この楽しい時間をまた皆さんと共有することができますように！イベント担当者も祈っております。

(E.O.)



クリムト生誕150年 特別展



2012年はオーストリアを代表的する画家グスタフ・クリムト（1862-1918）の生誕150年に当たりますが、これを記念して、ウィーン市内の美術史美術館やアルベルティーナ美術館など10か所の美術館や博物館などで年間を通して特別展が開催されます。

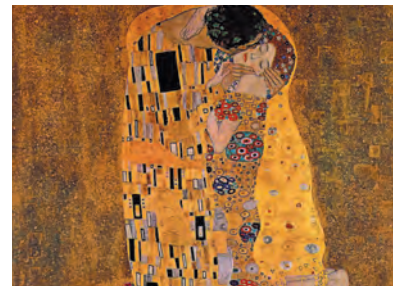
クリムトは前世紀末のウィーンを中心に活動した画家で、新しい芸術の波を先導し、多くの非難や中傷を受けながらも、みずからの表現を追求し続けました。

クリムトの作品は徐々に見る人を虜にし、王立劇場やウィーン大学の天井画などを描くなど多くの作品を残していますが、後に旧来の芸術に対抗した反体制的芸術家集団の「分離派」を結成します。現在ではオーストリアでは最も人

気のある画家のひとりになっています。

『接吻』に代表される、黄金の時代の作品には金箔が多用され、絢爛な雰囲気を出しています。女性の裸体、妊婦、セックスなど、赤裸々で官能的なテーマを描くクリムトの作品は、甘美で妖艶なエロスと同時に、若い娘の遺体を描いた作品も存在し、常に死の香りが感じられます。また「ファム・ファタル（宿命の女）」というのも多く作品に描かれたテーマです。

クリムトの作品に興味をお持ちの方は2012年中にウィーンを訪問されてはいかがでしょうか？



▲『接吻』1908年

会員寄稿

オーストリア第3の都市リンツとアルス・エレクトロニカ～リンツの街おこしは、芸術の祭典～



▲ 広島国際学院大学 情報デザイン学部 伏見清香教授

ウィーン、グラーツに次ぐオーストリア第三の都市リンツ（Linz）。地図上のリンツは、音楽の都市であるウィーンとザルツブルグの中間に位置します。この人口約20万人のリンツに世界中から8万～9万人

もの人が集まるメディア・アートの祭典「アルス・エレクトロニカ」が、毎年9月上旬に開催されます。これは工業の街だったリンツ市が文化の育成、地域活性化を目指し1979年から始めたフェスティバルです。

中央広場やレントス美術館など街全体を会場とするフェスティバルの中核をなすアルス・エレクトロニカ・センターは、第1回開催と同時に誕生しました。フェスティバルは、年に1週間だけの開催ですが、アルス・エレクトロニカ・センターは、1年を通して開館し、子どもから一般市民まで楽

しめるアートとテクノロジーを使用した参加型作品を展示しています。また、市民をターゲットとした講演会やイベント、企業や老人会の研修会、

大学の講義も実施し、社会的貢献に努めています。現在、センターは、最先端の取り組みと裾野を広げる取り組みの2つを行っています。欧州原子核研究機構（セルン：CERN）との共同研究と、子どもの未来を考え貢献する企画です。昨年12月には、アルス・エレクトロニカ・センターが初めて日本にやって来ました。大阪の商業施設の1階で作品展示とワークショップを実施し、買物に来た市民にアルス・エレクトロニカを紹介しました。アートとテクノロジーを利用した鉄鋼の街の街おこしは、市民や社会への還元を考慮しながら、さ

らに発展しています。皆様もウィーンにおでかけの際、リンツにも足をのばされてみてはいかがでしょうか？



▲ アルス・エレクトロニカ・センター



▲ 夜のレントス美術館とドナウ川対岸に見えるアルス・エレクトロニカ・センター



▲ リンツ市の中央広場



ウィーンの元旦はニューイヤーコンサートで新年のあいさつ

イップ 常子



▲ ウィーンフィルハーモニー管弦楽団

元旦を彩るウィーンフィルハーモニー管弦楽団のニューイヤーコンサートは、音響効果がすばらしいウィーン楽友協会の黄金のホールで開かれます。毎年テレビで日本をはじめ世界中に中継されますのでご存じの方も多いでしょう。

毎年、ヨハン・シュトラウス、ファミリーの曲を中心に演奏されますが、その年によってシュトラウス以外の曲も演奏されます。

恒例となっているコンサートの最初の曲はヨハン・シュトラウス2世の「美しき青きドナウ」です。その曲が始まって少しすると、中断し、指揮者をはじめオーケストラメンバー全員が一斉に「Prosit Neujahr・ハッピーニューイヤー」といって観客やテレビを見ている全世界の人々に新年のあいさつをします。

再び「美しき青きドナウ」の演奏に戻り、演奏にあわせて、今年は国立オペラ座専属のバレエ団のバレエも披露されました。そして、画家グスタフ・クリムト生誕150周年を記念してベルヴェデーレ宮殿の大理石の間でバレエがおこなわれました。

今回の指揮者は、2006年にも指揮台に立ったラトビア出身のマリス・ヤンソンスさんです。その時はモーツァルト生誕250周年に合わせてモーツァルトの曲も演奏されました。

今回は、久々のウィーン少年合唱団との協演もあり、「トリッ



チ・トラッチ・ポルカ」など天使の歌声に合った活気のある演奏が披露されました。

また、ヨゼフ・シュトラウスの「鍛冶屋のポルカ」ではヤンソンスさんが自らが金づちをたたき名演技を見せ、会場を沸かせました。特に心引かれたのは、チャイコフスキーのバレエ曲「眠れる森の美女」

など例年と一味違った演目もあり、感動の連続でした。

コンサートの最後を飾る曲は恒例のヨハン・ストラウス1世の「ラデツキー行進曲」が演奏され、観客も手拍子で参加し会場は大きな拍手と喝采に包まれました。

しかし、このニューイヤーコンサートと、まったく同じプログラムの演奏会が、ほかに2回あることは意外に知られていません。12月30日の「プレビュー・コンサート」と、大みそかの「ジルベスター・コンサート」です。

この3日間のコンサートはインターネットで申し込んで、当選したら購入できます。チケット料金は20～940ユーロ(約2千円～9万4千円)と幅があります。世界中から何万、いや何十万と応募が殺到しますが、当選するのはわずかにそれ約2千人です。当選は奇跡としか言いようがありません。

長年ウィーンに住み、ぜひ1度聴きに行きたいと思っていましたが、今回ビックチャンスが訪れました。



大みそかのチケット ▲ ウィーン楽友協会

トを持っていた友人が急用で行けなくなり、私が譲り受けたのです。

私も楽友協会のこの黄金のホールで第九を歌ったり、何度も演奏会を聴いたりしていますが、このニューイヤー・コンサートはやはり一味違い特別な雰囲気です。美しい花々で飾られ、まぶしいほどの照明に照らされたホールは、文字通り黄金色に輝いて見えました。

1939年12月31日に初めてクレイメンス・クラウスの指揮で始まったこのコンサート。歴代指揮者や演奏曲目を振り返ってみると、それぞれの時代の世相が反映され懐かしくよみがえってきます。

今回の感動が冷めないうちに私は早速、インターネットで次回のチケットを申し込みました。もしかするとまた奇跡的にチケットが手に入り、再び聴きに行けるかもしれないと、大きな希望を込めて…申し込みました。皆さんも来年はぜひ挑戦してみてください。

インターネットでの申し込みは：

[www. wienerphilharmoniker. at](http://www.wienerphilharmoniker.at) です。

チケット購入の抽選について日本語の説明があります。

(ウィーン在住)

広島オーストリア協会主催コンサート開催のお知らせ

近藤嘉宏 plays Chopin 「別れの曲」シネマ&リサイタル

広島では初めてとなる、伝説の名画「別れの曲」上映と、ピアノの貴公子 近藤嘉宏によるピアノリサイタルを同時に開催。新感覚のスペシャルイベント!!

日 時：平成24年11月10日(土)14:00開演(予定)

場 所：はつかいち文化ホールさくらびあ

入場料：S席：4,000円(会員：3,500円)、A席：3,000円(会員：2,500円)、学生席：1,500円(高校生以下)

内容紹介

【第一部】

映画「別れの曲」上映

[1934年・ドイツ・91分・モノクロ・ブルーレイ]

“ピアノの詩人”ショパンの若き頃から名声を得るまでの愛と苦悩を描いた感動作。

劇中に流れる「別れの曲」他、ショパンの名曲12曲も魅力の一つ。

ショパンの恋人である女流作家ジョルジュ・サンドやピアノの魔術師と呼ばれたフランツ・リスト、また小説「三銃士」などで知られる作家デュマや、作家パルザックなど歴史上の著名な登場人物も興味深い作品。エチュード第3番が「別れの曲」と呼ばれる由来となった、伝説の名画を上映します。



【第二部】

近藤嘉宏ピアノリサイタル [60分]

たおやかな音楽性と、端正かつ繊細な音色で世界を魅了し続けるピアニスト、近藤嘉宏。曲目は、映画の劇中で使われるショパンの作品を中心に構成します。(後日詳細決定)

映画の余韻にひたりながら、ショパンの名曲演奏をお楽しみください。



近藤嘉宏 (こんどうよしひろ ピアノ) プロフィール

川崎市生まれ。桐朋女子高等学校(共学)を経て桐朋学園大学を首席卒業。ミュンヘン国立音楽大学院においてゲルハルト・オピッツ氏のもとで研鑽を積む。1987年日本音楽コンクール第2位。1992年ミュンヘン交響楽団との共演でデビュー、大成功をおさめる。1995年国内デビュー。今後の更なる飛躍が期待される。

<http://www.t-artists.com/>

<http://ameblo.jp/yoshihiro-kondo/>

編集後記

今年度も6月の「年次総会」、8月の「講演とビヤホールの会」、12月の「クリスマス例会」、1月の「ニューイヤーコンサート」と恒例の事業を実施しました。そして、3月には会員から要望のあった「ケーキと音楽を楽しむ会」を初めて開催し、参加者の方々からは好評をいただきました。会員の皆様には、日頃、広島オーストリア協会の運営にご協力いただき、感謝申し上げますとともに、今後ともご支援とご協力をよろしくお願いいたします。なお、ご意見やご希望などありましたらご遠慮なく事務局までご連絡ください。(K.T. 記)